

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-145	高等学校	情報	社会と情報	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183 第一	社情318	高等学校 改訂版 社会と情報		

1. 編修の趣旨及び留意点

身近な事例や題材を通じて、情報と社会とのかかわりについて、関心を高めることができるよう配慮した。さらに、情報機器や情報通信ネットワークを使用して、実際に情報発信やコミュニケーションをおこなう活動を通じて、情報モラルを育成できるようにすることにも留意した。また、情報科学の基本的な概念にもふれることで、社会とのかかわりや情報モラルについて、科学的な見方や考え方ができる力を養えるようにした。

2. 編修の基本方針

1. 情報と社会とのかかわりおよび、社会をささえる情報技術・情報科学について、科学的・総合的にとらえられるように、記述の論理展開に配慮した。
2. コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、適切に情報を収集し、処理し、発信できる能力を養えるようにした。座学と実習をバランスよくできるように配慮した。
3. 実践的な事例を中心に展開した。また、新しい考え方や技術などを適宜導入していくとともに、技術革新によって内容が陳腐化しないよう配慮し、基本的なものを中心に展開した。
4. 望ましい情報社会の構築に不可欠な、情報モラルの考えを育成できるように配慮した。高校生が、「情報」を自分の問題としてとらえられるよう、日常的で具体的な例を多数取り上げた。

3. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
携帯電話のマナー／ コンピュータの構造	・携帯電話のマナーを通じて、公共の場における適切なふるまいについて考えられるようにした。(第3号)	前見返し
第1章	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に見られるさまざまな具体例をとりあげ、幅広い分野にふれられるよう配慮した。(第1号) ・レポートを作成し相互評価する、名刺を作成するなど、自分の考えを発表したり自己紹介をしたりする機会ができるように配慮した。(第2号) ・名刺をつくる実習では、国際的な活動を意識できるように、英語版の作成もとりあげた。(第5号) 	<p>p. 2-29</p> <p>p. 23-27</p> <p>p. 26-27</p>
第2章	<ul style="list-style-type: none"> ・震災時にテレビ画面を勝手にネット中継した人のことをジレンマの例としてとりあげ、自分で判断すること、その責任は自分で取ることを意識できるようにした。(第3号) ・日常生活を分析し、振り返る活動を通じて、自身の健康を意識できるように配慮した。(第4号) 	<p>p. 50-51</p> <p>p. 52-53</p>

第3章	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産やプライバシーなど個人のもつ権利について、具体的事例を多く取り上げて、自分の問題として考えることができるように配慮した。(第3号) 	p. 62-69
第4章	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器が心身に与える影響について扱い、自身の健康を意識できるように配慮した。(第4号) 	p. 84-85
第5章 (総合実習)	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なデータをグラフ化する例をさまざまな分野から多数とりあげ、幅広い知識を得ると同時に、そのデータの内容を読み取ることから真実を追求できる態度を養えるようにした。(第1号) ・絶滅危惧種について調べる活動を通じ、自然を大切に環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号) ・職業について調査・研究する活動を通じ、将来のキャリアについて考える機会が得られるようにした。(第2号) 	<p>p. 114-119</p> <p>p. 130-133</p> <p>p. 135-139</p>
発展	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースが使われる例としてバスのチケット販売システムをとりあげ、さまざまな職業が相互に関わっていることも理解できるようにした。(第2号) 	p. 151
巻末資料	<ul style="list-style-type: none"> ・教科「情報」の内容に関する法律の条文を多数掲載し、情報社会を生きていくうえで必要なルールの根拠を理解できるように配慮した。(第3号) 	p. 180-184
情報技術の発達／ローマ字入力表・ショートカットキー／キーボード・マウス	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアや情報技術の発展において、各国でどのような重要な出来事や発明等があったかを俯瞰できるようにして、他国を尊重する態度を養えるようにした。また、日本でも古くから瓦版などのメディアが流通していたことにもふれ、伝統と文化について興味をもてるように配慮した。(第5号) 	後見返し

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・国際語としての英語を習得する重要性を踏まえ、アルファベットの略号であらわされる用語については、もとのスペルを付記した。また、漢字には積極的にルビを添え、一般的な教養も身につくよう配慮した。
- ・体験を通じて理解することを重視し、随所に「ためしてみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「しらべてみよう」欄を設けて、本文の理解を深められるように配慮した。
- ・理解を深められるよう、各章末に「まとめ」「章末問題」を設けた。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-145	高等学校	情報	社会と情報	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183 第一	社情318	高等学校 改訂版 社会と情報		

<p>1. 編修上特に意を用いた点や特色</p> <p>1. 日常生活との関連性を認識させ、「情報」への関心を高められるよう、親しみやすい題材を豊富に取り上げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例を多く取り上げ、自分の問題として「情報」への関心を高められるようにした。 <p>2. 「情報」についての基本的な概念や原理・法則を着実に習得できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文記述は丁寧におこない、できるだけ図解をまじえて理解できるようにした。 ・「考えてみよう」具体例を多く取り上げ、自分の問題として「情報」への関心を高められるようにした。 <p>3. 実習活動を通して、「情報」の性質を体験的に理解できるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やってみよう」「ためしてみよう」「しらべてみよう」を配置し、体験を通じて本文の学習内容が定着できるようにした。 ・各章末では、パーソナルコンピュータの基本操作、科学的理解のための作業、発表活動など、さまざまな体験ができるように配慮した。 ・総合実習の章を設けて、多様な実習に取り組めるようにした。 <p>4. 学習段階や興味・関心の異なる生徒に対応するため、幅広い内容を取りあげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の操作の習熟度の違いが影響しないよう、パーソナルコンピュータの基本操作も学習できるようにした。 ・身のまわりのシステムの背後にあるしくみのよりよい理解につながるように、アルゴリズム、データベース、シミュレーションの基本的な内容も取り上げた。 <p>5. 平易にわかりやすく記述するとともに、漢字には積極的にルビを添え、あらゆる学習段階の生徒が無理なく読み進められるよう配慮した。</p> <p>6. ユニバーサルデザインフォントを採用し、読みやすさの向上にも努めた。</p>
--

2. 対照表			
図書の内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
携帯電話のマナー	(2) ウ	前見返し	2
コンピュータの構造	(1) イ	前見返し	
第1章 情報の活用と表現			12
第1節 情報とその活用	(1) ア	p. 2- 9	
第2節 情報の表現	(1) イ	p. 10- 21	
章末実習	(1) ウ	p. 22- 27	
第2章 情報通信ネットワークとコミュニケーション			11
第1節 コミュニケーション手段の発達	(2) ア	p. 30- 35	
第2節 情報通信ネットワークのしくみ	(2) イ	p. 36- 45	
第3節 ネットワークコミュニケーション	(2) ウ	p. 46- 51	
章末実習	(1) ウ	p. 52- 53	

第3章 情報社会のしくみと安全性 第1節 情報システム 第2節 情報社会の法と個人の責任 第3節 情報社会と安全性 章末実習	(4) ア (3) ウ (3) イ (2) ウ, (3) ウ	p. 56- 61 p. 62- 69 p. 70- 77 p. 78- 79	10
第4章 情報社会と問題解決 第1節 情報化の光と影 第2節 情報技術と人間 第3節 問題とその解決 章末実習	(3) ア (4) イ (4) ウ (4) イ	p. 82- 87 p. 88- 93 p. 94-105 p.106-107	10
第5章 総合実習 情報発信のプロセス 1 いろいろなグラフ 2 統計の活用 3 アンケート調査をしよう 4 ピクトグラムをつくろう 5 著作権クイズをつくろう 6 絶滅危惧種について調べ, 発表しよう 7 職業研究	(1) ウ (1) ウ (1) ウ (1) ウ, (4) ウ (1) ウ, (4) ウ (2) ウ, (3) ウ (2) ウ, (4) ウ (2) ウ, (4) ウ	p.110-113 p.114-117 p.118-119 p.120-123 p.124-125 p.126-129 p.130-133 p.134-139	18
発展 発展1 コンピュータがはたらくしくみ 発展2 情報の蓄積・管理とデータベース 発展3 モデル化とシミュレーション	発展 発展 発展	p.140-145 p.146-151 p.152-157	—
巻末資料 ①文字コードとフォント ②画像処理・色 ③ワードプロセッサを使おう ④表計算ソフトウェアを使おう ⑤プレゼンテーションソフトウェアを使おう ⑥HTML タグのまとめ ⑦著作権 Q&A ⑧情報社会のおもな法律	(1) イ (1) イ (1) イ, (1) ウ (1) イ, (1) ウ (1) イ, (1) ウ (2) イ (3) ウ (3) ウ	p.158-159 p.160-161 p.162-165 p.166-171 p.172-175 p.176-177 p.178-179 p.180-184	1
情報技術の発達 ローマ字入力表/ショートカットキー キーボード/マウス	(2) ア (1) ウ (1) イ	後見返し 後見返し 後見返し	1
		計	65

※年間授業時数を 65 時間として配当している。

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-145	高等学校	情報科	社会と情報	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
183 第一	社情318	高等学校 改訂版 社会と情報		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項
140-145	コンピュータがはたら くしくみ	1	内容(1)イ「情報のデジタル化」の内容の取り扱いにおける、「コンピュータの内部では情報がデジタル化されている」ことに加えて、コンピュータがプログラムによって動作していることを示すことで、コンピュータという情報機器の特徴を深く理解できるようにした。
146-151	情報の蓄積・管理とデ ータベース	1	内容(4)ア「社会における情報システム」において、多くの情報システムがいろいろなデータをデータベースで管理している現状を理解できるように、また、内容(4)ウ「情報社会における問題の解決」において、問題解決の有力な手法の1つとして選択できるように、データベースというしくみの基本的事項を取り上げた。
152-157	モデル化とシミュレー ション	1	内容(4)ウ「情報社会における問題の解決」において、問題解決の有力な手法の1つとして選択できるように、シミュレーションについて学習できるようにした。

(発展的な学習内容の記述に係る総ページ数 18)

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容